

第13節 幼稚園生活さいしょの1ヶ月

「あっ！雪や！」

自転車の前椅子に乗っているリョウが叫んだ。幼稚園の門が見えると同時に桜吹雪が舞ったのだ。

「そうやね、あれは“さくらふぶき”って言うねん。」

ああ、この道を毎日通うんだ……。マサミツの入学、リョウとタイの入園を一気にかけてくれた私は、少々感傷的、いや、小さな感動の嵐につつまれて毎日を過ごしていた。

リョウの「雪」という言葉に、マンガでいえば目に星がキラキラするような私であったのに、タイの叫びで現実に戻った。

「どこっ！？見えへん！」

そう。後ろの席は景色が悪いので不人気である。タイは体ごとゆすり“雪”を見ようとするので、私に「じっとしてなさい」と叱られるはめになる。

自転車は本来2人乗りは禁止だ。しかし、6歳以下つまり小学生以下のこどもを1人乗せる分には許されている。こどもでも2人を乗せると違反だ。家から遠い幼稚園に2人を通わせるとなると“ごめんなさい”の気持ちも薄らいだまま3人乗りを続ける。

(ここだけの話だが、自転車4人乗りを見たことがある。母、前にこども、後ろにこども、母の背中にくりつけられて赤ちゃん。びっくりした。さすがに、あれはやめといた方がええ。もしもこけたらどうすんねん？しかし、こけた状況を考えて、私も笑ってられない。)

その自転車の席の取り合いが毎朝起こる。3年保育なので、兄弟姉妹で通っている人も多いが、たいてい、体の大きさに差があるので、自然と席はきまるのだが、ふたごであり、体重の差は1キロあるが見た目にはかわらず、双方が車を見たいために前の席にすわりたがる場合に指定席はない。

ジャンケンはまともにできないし、あまりの前席人気のために“かわりばんこ”は意味をなくす。自転車置き場でいつまでもモメている場合ではないので、「幼稚園から帰る時、前に乗ったらええしな」と言いくるめて、とりあえずタイを後ろに乗せることになる。体重が1キロ重いのはタイの方なのだ。一応、重い方を後ろに乗せた方が運転はし易い。

愛らしく「ウン」とうなづくタイだが、帰り道に前席に乗れる保証はない。リョウは意志が強くイケズなのだ。彼は、3人兄弟の中で一番ちゃっかりしていて我が強く、言ったらきかない。

そんなリョウだが、園に到着するとがぜん頼もしい。サッサと上靴に履き替え、部屋に入っていく。ある種自立している。タイは、ほんの少し私に見ていてもらいたいそぶりを見せる。リョウとも私とも離れると、所在なげにしている。

だが、そこからがふたごの本領発揮。私の「おかあさんはお家に帰ってお掃除とお洗濯をして、また迎えに来るしな。バイバイ」っていう言葉にも泣かない。これはふたごならではの心強さなのだと思う。同じ空間に相棒がいるという安心感。今はなんだかわからないが、同じサイズのこどもがわんさかいるし、まあいいか、という思いがあるのだろうか。もう少し大きくなったら、どんな気持ちで幼稚園に通っているのか尋ねてみたい。

ところで、おかあさんのバイバイは大切らしい。

通っている幼稚園は公立幼稚園であり、給食はなし、お送りお迎えバスもなし、午後からも保育してもらえるのは、お弁当が始まる5月下旬からで、それも最初は週1回。それまでは午前中に終わる。しかも入園式から最初の1週間は10時30分にお迎えに行かなくてはならない。つまり、幼稚園にいる時間はたったの1時間半なのだ。先生によると、それでも年少さんになりたてのこどもたちには、相当長い時間であるらしい。

なるほど、リョウとタイにとっても、場所はなじみであるが環境は真新しいものである。その中で毎日小さな冒険を繰り返すのだ。だから、おかあさんのバイバイは「さあ、がんばってね」という合図であり、儀式なのだと理解して、必ずひとりひとり、ちゃんと目を見てバイバイをしてくれるまで朝のさよならをする。

ふたごを持つ親として、先生とのコミュニケーションも大事にしたいひとつだ。

まず、こどもの名札は決して忘れない。うちのふたごは二卵性双生児なので、「兄弟よりも似ているが、一卵性双生児よりは似ていない」と言うように、まったくそっくりで区別が付かないということはないだろう、と思っていたら、大間違いであった。先生にはまったく区別がつかないそうだ。

ちょっと背が高いのがタイ。ちょっと細身なのがリョウ。極めつけ歯の2本折れているのがタイ……。と見分ける方法をお教えするのだが、どれもふたごを並べてみないとわかりづらいし、“歯”に関しては笑わんとわからん……。となると名札が勝負！なのだ。

せめて服装をまったく違うものにすればよいのだが、色違いのTシャツでも片方の色が取り合いになったりするものだから、違う服となると、着るまでにモメたりケンカしたり譲ったりの折衝が長くかかりすぎて……。つまり親が面倒くさいので、割合お揃いのものを着せることが多い。ありがたいことにばばちゃんがたくさんお揃いの服を買ってくれたり作ってくれたりすると、何よりも見た目にかわいいので、同じデザインで色違いや、お揃いを着せてしまうことが多いので許してね、先生。

先生は「そのうち見分けられるようになります」と言ってくくださるので頼もしい。余計な労力をかけますが、どうぞよろしくお願いします。

そんなこんなで2週間。ご機嫌よろしゅう幼稚園に通っていたふたごたちであったが、やって来ました！新生活の疲れ……。そう、風邪だ！夕方から微熱が出て、ハナがズルッ、咳がコンコン。マサミツも4月の間に3日程休んだっけ。

さて、ここで問題。ふたごの内ひとりが風邪をひき、ひとりは元気な場合、あなたならどうする？

1. 風邪ひきの子は休ませて、元気な子は幼稚園に行かせる。
2. 風邪ひきの子に付き合わせて、元気な子も幼稚園を休ませる。
3. 風邪ひきの子もえーい！行ってしまえ！？

私が選んだのは1。当然と言われれば当然なのだが、条件が揃わないとこれは難しく、ひとりの欠席のためにもうひとりも休ませることに流れがちである。まあ、2を選択しても決して責められることではない。

具体的には、夫にリョウを幼稚園まで送ってってもらい、私は病院へタイを連れて行く。お迎えの時間に合わせてばばちゃん（私の実母：自転車で10分の距離に住む）に家に留守番に来てもらい、私はまたリョウを迎えに自転車で走る。

リョウはその日絵本をもらって来たので、欠席しているタイの分の絵本も担任の先生にいただく。1冊の絵本が取り合いになるんだもん。

文字にすると簡単なことだが、夫にリョウを送っていく余裕がない場合、あらかじめばばちゃんに連絡をいれておくことや、病院での待ち時間、天候が悪かった場合など、多々の細かい事情や状況を加味して行動しなければならない。

こどもの具合が悪い時には、洗濯物は前日夜に済ませておき、翌日のお昼ごはんメニューまで考えて置くくらいでないといけない。

どうせ風邪をひくなら、なんで同時にひかへんのや？！と思うくらい2～3日遅れて発熱するふたごなので、土日をはさんだが、結局3日間もふたご片方出勤をさせた。

そんなこんなで幼稚園生活最初の1ヶ月が過ぎた。

うさぎにリンゴの皮やキャベツの外葉をやるのが大好きなんだね。嬉しいね。

ゴールデンウィーク明けに、私が帰るとすぐに大泣きしたそうですね。ずっと家族と一緒に過ごしたから、母と離れがたかったらしいです。

かばんが濡れたあ～って泣いていたね。それくらいのことで泣かない！

幼稚園っていろんなことが起こるでしょ？悲しいことも痛いことも（お友達に手首をかまれた！あれはちょっとヒドい！！）あるけど、楽しいこと、嬉しいこともあるんだよ。盛りだくさんなこれからの幼稚園ライフを満喫できそうな雰囲気です。

リョウがタイのお部屋で遊んでいたたり、タイがリョウのお部屋で絵本を読んでもらっていたり、自由に行き来しているようでのびのびとやっているよう。先生も特にとがめもせず、あたたかく見て下さっている。

上々のスタートであります。

幼稚園でもふたりで遊んでしまうことが多いので、他のお友達との関わりができていくだろうけれど、それも時間の問題だろうと思います。タイの友達のリョウの友達、リョウの友達はタイの友達……って2倍友達ができるやん！

ゆっくりゆっくり大きくなあれ！